

冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第1回アスリート部会 議事録

日時： 平成 28 年 8 月 22 日（月） 14：00～16：00

場所： TKP 札幌ビジネスセンター カンファレンスルーム 9A

（中央区北 3 条西 3 丁目 1-44 ヒューリック札幌ビル 9 階）

出席者：

○委員

スキー・アルペン	川端 絵美 委員
	滝下 靖之 委員
スキー・ジャンプ	原田 雅彦 委員
スキー・ノルディック複合	阿部 雅司 委員
	森 敏 委員
スキー・フリースタイル（エアリアル）	工藤 哲史 委員
スキー・フリースタイル（モーグル）	山崎 修 委員
スキー・スノーボード	上島 しのぶ 委員
スケート・スピードスケート	鈴木 靖 委員
	深澤 雅子 委員
ボブスレー・スケルトン	稲田 勝 委員
リュージュ	牛島 茂昭 委員
	戸城 正貴 委員
カーリング	佐藤 浩 委員
	松沢 美香 委員
バイアスロン	風間 淳 委員
	目黒 宏直 委員
スキー・クロスカントリー（パラリンピック）	加藤 弘 委員
アイススレッジホッケー（パラリンピック）	永瀬 充 委員

欠席者：

スキー・アルペン	湯浅 直樹 委員
スキー・クロスカントリー	石田 正子 委員
	夏見 円 委員
	吉田 圭伸 委員
スキー・ジャンプ	須田 健仁 委員
スキー・ノルディック複合	加藤 大平 委員
	富井 彦 委員
スキー・フリースタイル（エアリアル）	逸見 佳代 委員

スキー・フリースタイル（モーグル）	坂本 豪大 委員
	里谷 多英 委員
スキー・スノーボード	村上 大輔 委員
スケート・スピードスケート	及川 佑 委員
	大菅 小百合 委員
	太田 明生 委員
	三宮 恵利子 委員
	長島 圭一郎 委員
アイスホッケー	平野 由佳 委員
	米山 知奈 委員
ボブスレー	桧野 真奈美 委員
カーリング	石崎 琴美 委員
	近江谷 杏菜 委員
	船山 弓枝 委員
	本橋 麻里 委員
	吉田 知那美 委員
バイアスロン	菅 恭司 委員
	鈴木 李奈 委員
	立崎 芙由子 委員
	出口 弘之 委員
スキー・アルペン（パラリンピック）	狩野 亮 委員

次第：

1 開 会

2 スポーツ局長挨拶

3 アスリート部会の設置要領に係る説明

4 議 事

(1) 部会長、副部会長選出

(2) 意見交換

① アスリートファーストの視点での大会への意見・アドバイス

② アスリート部会の今後の活動についての意見

5 閉 会

《配布資料》

- 資料 1 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議アスリート部会 設置要領
- 資料 2 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議アスリート部会 名簿
- 資料 3 冬季オリンピック・パラリンピック招致に関する想定スケジュール（平成 28 年度）
- 資料 4 冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）【概要版】
- 資料 5 冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）【本書】
- 資料 6 札幌に冬季オリンピック・パラリンピックを【パンフレット】

《参考資料》

- 参考 1 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 設置要領
- 参考 2 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 平成 28 年度事業計画
- 参考 3 第 1 回冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 議事次第
- 参考 4 第 1 回冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 議事録

発言者	発言要旨
1 開会	
事務局	<p>開始時間となったので、ただ今から冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第1回アスリート部会を開催する。</p> <p>部会長選出までの間、私、札幌市スポーツ局招致推進部長の梅田が進行させていただきます。</p>
2 スポーツ局長挨拶	
事務局 石川スポーツ局長	<p>はじめに、石川スポーツ局長よりご挨拶申し上げます。</p> <p>札幌市では、2026年冬季札幌オリンピック・パラリンピック招致を表明し、「開催概要計画書（案）」の作成を進めている。今後、日本オリンピック委員会（JOC）へ開催概要計画書を提出し、立候補に向けた活動を進めていきたいと考えている。</p> <p>6月8日には各競技団体の代表者にお集まりいただき「冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議」を開催し、様々な意見をいただいた。その中では「アスリートの方々から意見、アドバイスをいただく場を設けるべき」との意見をいただき、本日アスリート部会を開催することとなった。</p> <p>当部会ではオリンピック・パラリンピックに出場経験のある皆様から貴重な意見をいただきながら、招致活動への協力をお願いしたい。</p>
部会委員の紹介	
事務局	<p>当部会委員の皆様をご紹介します。当部会委員は資料2「冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議アスリート部会 委員名簿」のとおりであるが、本日出席の委員の皆様を紹介する。</p> <p>（出席委員19名を競技別に紹介）</p>
アスリート部会の設置要領の説明	
事務局	<p>当部会の設置要領について説明する。</p> <p>（事務局から資料1について説明）</p> <p>設置要領についてご質問はあるか。</p> <p>（質問なし）</p>

<p>3 議 事</p> <p>(1) 部会長及び副部会長の選出</p>	
事務局	<p>当部会では、委員の互選により、部会長及び副部会長を選ぶこととしたしたい。ご推薦のある方は、挙手の上ご発言をお願いしたい。</p>
原田委員	<p>事務局に案があればご推薦いただきたい。</p>
事務局	<p>原田委員より事務局による推薦の提案があった。事務局として部会長にスキー・ノルディック複合の阿部雅司委員、副部会長にスピードスケートの鈴木靖委員をお願いしたいと考えているが、いかがか。</p> <p>(異議なし)</p>
事務局	<p>阿部委員に部会長、鈴木委員に副部会長をお引き受けいただきたい。阿部委員と鈴木委員は、部会長、副部会長席にお移りいただきたい。</p> <p>(各委員が部会長、副部会長席に移動)</p> <p>阿部部会長にご挨拶をお願いしたい。</p>
阿部部会長	<p>先ほど終了したリオオリンピックでは、多くの日本人の活躍により感動を与えられ、4年後の東京オリンピック・パラリンピックも間違いなく盛り上がると思われる。札幌においても感動のオリンピックを再び開催するため、当部会は何ができるのかを検討していきたい。</p>
事務局	<p>鈴木副部会長にご挨拶をお願いしたい。</p>
鈴木副部会長	<p>当部会の委員 48 名の母体となっている「北海道オリンピック・パラリンピアンズ」には現在 403 名が所属しており、リオ大会後には 413 名となる予定である。より良い札幌オリンピック・パラリンピックとなるようにアスリートが一丸となって、招致に取り組んでいきたい。</p>
<p>冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）の説明</p>	
阿部部会長	<p>意見交換の前に事務局より冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）について、説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(事務局から資料 3～6 について説明)</p>

阿部部会長	事務局から説明のあった内容について、ご質問はあるか。 (質問なし)
(2) 意見交換 ①アスリートファーストの視点での大会への意見・アドバイス	
阿部部会長	<p>本日は2つのテーマについて、意見交換を行う。</p> <p>まずは「①アスリートファーストの視点での大会への意見・アドバイス」についてである。</p> <p>先ほど事務局より説明のあった開催概要計画(案)には「大会コンセプト 視点1:大会運営」の中で「アスリートファーストの視点で」という記載がある。</p> <p>オリンピック・パラリンピック出場の経験を持つ皆様にアスリートファーストの視点から、大会運営などについてご意見やアドバイスをいただきたい。</p> <p>事務局は発言の趣旨をホワイトボードにまとめていただきたい。</p>
原田委員	ジャンプ競技では風が弱い夜間に行うなど、競技に最適な天候となる時間帯に競技を行うなどの配慮してほしい。
川端委員	<p>アルペン競技は天候による影響で競技日程が変更するので、選手にとっては大きなストレスとなる。世界に誇る質の高い雪で競技を行えるので、降雪が比較的少ない時期に行ってほしい。</p> <p>セキュリティや費用などの面から選手村を1ヶ所にまとめるのが望ましいが、選手村から離れている競技会場の近くにも選手村のような施設を設置してほしい。新設ではなく、トレーニング設備が整っている既存の大学などを利用することで、競技以外の時間をストレスなく過ごすことができる。</p>
深澤委員	バンクーバー大会ではリンクが早くにオープンしていたため、夏合宿で利用できたが、ソチ大会ではオープンが遅く、本番と同じ環境で練習できる機会が少なかった。日本チームの活躍にも影響を与えるので、リンクを早くオープンし、本番と同じ環境で練習できるようにしてほしい。
牛島委員	ソリ競技はすべて同じ会場で行う場合が多いため、競技時間の調整や混雑時間帯を避けるなどの工夫を行ってほしい。また、競技会場内で待機できる場所を確保してほしい。

<p>佐藤委員</p>	<p>リージュの競技会場には上り坂が多くあり、転んで怪我をしてしまうため、配慮してほしい。</p> <p>カーリングは氷の質がとても重要なので、世界一であるカナダのような氷を札幌でも作れるようにしなければいけない。</p> <p>競技時間が長いので、競技会場内にコンディショニングできる場所を確保してほしい。</p>
<p>風間委員</p>	<p>宿泊施設では競技団体や選手、役員ごとに部屋にいる時間が異なるため、防音設備や部屋割りなどに気をつけてほしい。</p> <p>バイアスロンでは銃を扱うため、セキュリティチェックが厳しく、長時間を要し選手へストレスを与えてしまう。セキュリティ対策は重要であるが、スムーズな手続きをお願いしたい。</p>
<p>永瀬委員</p>	<p>後付けでバリアフリー整備を行うのではなく、はじめからパラリンピックに対応した施設を整備してほしい。アイススレッジホッケーでは、ベンチやペナルティボックス内を氷リンクとすることやシャワールームなどをバリアフリーとするなど。</p> <p>アルペンではチェアスキーでゴンドラに乗ることができるのか、追加される可能性があるソリ競技の会場などのバリアフリー整備をどうするか検討してほしい。</p> <p>スキー・クロスカントリーとバイアスロンは、オリンピックと違いパラリンピックでは重複して出場する選手が多いため、別会場であれば移動をどうするかなどの検討が必要。</p> <p>パラリンピックは競技数や名称などの変化があるので気をつけなければならない。開催概要計画（案）では5競技だが、ソチ大会の後にスノーボードが競技になり計6競技になっている。アイススレッジホッケーは2018年からパラアイスホッケーになる。</p> <p>2020 東京オリパラでは、「バリアフリー」ではなく「アクセシビリティ」という言葉が主に使われている。</p> <p>夏季大会では知的障がい者クラスが復活しているため、将来的に冬季大会でも知的障がい者クラスが復活する可能性を考えておくべき。</p>
<p>川端委員</p>	<p>名ばかりのアスリートファーストとならないように、アスリートの意見を取り入れてほしい。</p>

鈴木副部長	<p>ロンドン大会はアスリートが組織委員会に参加し、意見を取り入れたことで大成功となったので、札幌もそのようになってほしい。</p> <p>本日欠席の委員から意見をいただいているので、主旨を代読する。</p> <p>バイアスロンの立崎委員からは SNS を利用した積極的な広報活動をするべきとの意見をいただいている。</p> <p>パラリンピックスキー・アルペンの狩野委員からは選手村から会場へのアクセスでストレスを可能な限り取り除いてほしい、選手村の中に選手と子ども達が触れ合えるミックスゾーンを設置してほしいとの意見をいただいている。</p>
<p>(2) 意見交換</p> <p>②アスリート部会の今後の活動についての意見</p>	
阿部部長	<p>次は「アスリート部会の今後の活動についての意見」についてである。</p> <p>先ほど皆様からご発言いただいた意見や部会の目的である冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致に向けて、今後、アスリート部会として何ができるか、どのように活動を進めていくかについて、委員全員からご意見をいただきたい。</p>
川端委員	<p>子ども達がウィンタースポーツを生で観戦し、親しみを持つことが重要であるため、入場料割引やオリンピック・パラリンピアンによる解説などの工夫を行うべきである。</p>
滝下委員	<p>ワールドカップやジュニア大会等の開催実績をつくり、オリパラ招致の盛り上がりにつなげたい。</p>
原田委員	<p>市民や道民の関心を高めるためにシンボルバッジなどを作成し、アスリートが招致について説明するようにならなければいけない。</p>
森委員	<p>アスリートの意見を早い段階から取り入れ、10年後を見据えた選手育成に活用してほしい。日本チームが活躍するには競技人口を増やさなければいけないので、体験会等にアスリートが身近な存在として子ども達へアピールするべきである</p> <p>ノルディック複合ではジャンプとクロスカントリーの会場を近くに配置してほしい。</p>

工藤委員	<p>スキー・フリースタイルでは競技を行える場所が少ないので、子ども達が楽しく安全に競技を行える環境を整えなければならない。</p>
山崎委員	<p>アスリートが競技の魅力を伝えるべきであり、大都市の近くで競技が行える札幌の恵まれた環境をアピールしなければならない。</p> <p>子どもがウィンタースポーツを始めるきっかけとなるようなイベントにアスリートが参加したい。</p>
上島委員	<p>スノーボード選手のピークは10～20代であり、若いうちにメダリストになれる可能性があるため、今から10年後に向けて選手の発掘や育成、競技場所の確保をアスリートが中心となり取り組むべきである。</p>
永瀬委員	<p>アスリートが中心となり、町内会など身近な場所で子ども達に冬季競技をアピールすることが重要である。</p>
加藤委員	<p>観客、特に子ども達に応援してもらうことが選手にとって一番の原動力となるので、長野大会で行った学校ごとに国を応援する1国1校活動を復活するなど、子ども達への教育に我々が関わるべきである。アジア大会やIPCの大会などにアスリートが参加するべきである。</p>
目黒委員	<p>市民や道民、国民の気運醸成が重要であるため、オリンピック・パラリンピックのサインを新聞広告に掲載するなど、アスリートが協力していることを示しながら広報活動を行うべきである。地下鉄駅やオータムフェストなどのイベントなど市民から見られる場所でアピールすべき。</p> <p>アスリートが合宿地に訪れ交流することがジュニア世代の育成につながる。小中学校でのオリパラ教室にアスリートが参加し、オリパラ教育を広めるべき。</p> <p>競技団体とのパイプ役としても協力していきたい。</p>
風間委員	<p>オリンピック・パラリンピック開催には多くの費用が必要となるため、スポンサーの獲得にアスリートを活用してほしい。</p>
松沢委員	<p>自分の街でオリンピック・パラリンピックが開催される素晴らしさが市民に伝わっていないように感じる。</p> <p>体験会の参加者が競技を続けることが少ないので、学校や町内会と連携して継続的な取り組みを行いたい。</p>

<p>佐藤委員</p>	<p>オリンピック・パラリンピック開催後に何を残すことができるかをアスリートが考えなければいけない。</p> <p>カーリングは長野大会からオリンピック競技となっており、注目度は高い方ではあるが、競技人口は減少し続けているので、増やすための取り組みや競技環境の整備が必要である。</p>
<p>戸城委員</p>	<p>リュージュコースは夏季にウォータースライダーとして利用するなど、通年利用できる施設として検討できるのではないかと。</p>
<p>牛島委員</p>	<p>冬季競技全体で活動していかなければならない。</p> <p>夏季競技との交流を増やし、冬季の練習として冬季競技を取り入れてもらうことで選手の発掘につなげたい。</p> <p>普段からアスリート部会としての活動をアピールするために名刺を作成してはいかがかと。</p>
<p>稲田委員</p>	<p>冬季アジア大会の成功が重要となるが、小中学生は存在自体を知らないため、まずはアジア大会をアピールしなければいけない。</p> <p>子ども達が冬季競技に興味を持ってもらえるような活動を行いたい。</p> <p>冬季競技では競技団体も選手の親も金銭面で苦勞しているため、育成基金を立ち上げるべきである。</p>
<p>深澤委員</p>	<p>保護者からは金銭や送り迎えなどの負担がどのくらいか聞かれることが多いので、選手育成へのサポートについて検討しなければならない。</p>
<p>原田委員</p>	<p>競技施設については、特にアスリートに意見を聞いてほしい。</p>
<p>川端委員</p>	<p>アスリートとして札幌でオリパラが開催されることはうれしいが、市民への負担が増えるので、きちんとした説明が重要であり、アスリートからも説明できるようにならなければいけない。</p>
<p>永瀬委員</p>	<p>これまでの大会ではホッケー会場に練習用サブリンクがあるが、札幌のリンクにはサブリンクがないため、作るのであれば始めから予算に組み込み、後付けで予算が増えないように情報を公開する必要がある。</p> <p>アスリートを活用し、小中学校へレガシーを伝える活動をしてほしい。</p>

